

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	地域高規格道路 上越魚沼地域振興快速道路 一般国道18号 上新バイパス	事業	一般国道	事業	国土交通省						
		区分		主体	北陸地方整備局						
起終点	自：新潟県上越市中郷区市屋 至：新潟県上越市下源入	延長	24.6km								
事業概要	国道18号上新バイパスは、「交通混雑の緩和、交通事故の低減」「広域幹線ネットワークの強化」などを目的とした延長24.6kmの4車線のバイパス事業である。										
S50年度事業化	S50～58年度都市計画決定	S50年度用地着手	S53年度工事着手								
全体事業費	約944億円	事業進捗率	60%	供用済延長	16.5km(暫定2車線) 8.1km(完成4車線)						
計画交通量	11,500～41,100台/日										
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.1 (残事業) 1.1	総費用 (残事業)/事業全体 324 / 1911億円 (事業費：280 / 1670億円 維持管理費：44 / 241億円)	総便益 (残事業)/事業全体 349 / 4075億円 (走行時間短縮便益：264/3373億円 走行経費減少便益：55/596億円 交通事故減少便益：30/105億円)	基準年	平成24年						
感度分析の結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(事業全体) 交通量：B/C= 1.9～2.3(交通量±10%)</td> <td style="width: 50%;">(残事業) 交通量：B/C= 1.0～1.2(交通量±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C= 2.1～2.2(事業費±10%)</td> <td>事業費：B/C= 1.0～1.2(事業費±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C= 2.1～2.1(事業期間±20%)</td> <td>事業期間：B/C= 1.0～1.1(事業期間±20%)</td> </tr> </table>					(事業全体) 交通量：B/C= 1.9～2.3(交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C= 1.0～1.2(交通量±10%)	事業費：B/C= 2.1～2.2(事業費±10%)	事業費：B/C= 1.0～1.2(事業費±10%)	事業期間：B/C= 2.1～2.1(事業期間±20%)	事業期間：B/C= 1.0～1.1(事業期間±20%)
(事業全体) 交通量：B/C= 1.9～2.3(交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C= 1.0～1.2(交通量±10%)										
事業費：B/C= 2.1～2.2(事業費±10%)	事業費：B/C= 1.0～1.2(事業費±10%)										
事業期間：B/C= 2.1～2.1(事業期間±20%)	事業期間：B/C= 1.0～1.1(事業期間±20%)										
事業の効果等	<p>①新幹線駅である上越駅(仮称)へのアクセス向上 ・上越地域唯一の新幹線新駅がH26年度開業予定であり、新幹線駅へのアクセス性向上が期待される。</p> <p>②直江津港へのアクセス向上 ・直江津港から関東及び長野・東海方面へのアクセス性向上が期待される。</p> <p>③物流等の支援 ・周辺地域では、大型小売店舗の立地や土地区画整理事業、総合運動公園などの開発が進んでおり、物流や地域開発を支援することが期待される。</p> <p>④日常生活圏の中心都市である上越市へのアクセス向上 ・上越市と妙高市間のアクセス性が向上し、通勤・通学等の利便性向上が期待される。</p> <p>⑤主要な観光地へのアクセス向上 ・沿道の観光施設の更なる集客や、信越観光圏整備計画の支援に寄与することが期待される。</p> <p>⑥第三次医療施設(新潟県立中央病院)へのアクセス向上 ・第3次医療施設への搬送時間が短縮され、救命率の向上に寄与することが期待される。</p> <p>⑦緊急輸送道路としての信頼性向上 ・上信越自動車道の代替ルートとしてリダンダンシー機能を発揮することが期待される。</p> <p>⑧冬期間におけるスムーズな交通の確保 ・降積雪による登坂不能車発生時等の渋滞を緩和し、積雪期の円滑な交通を確保することが期待される。</p>										
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見等 ・上越市・妙高市から、早期4車線供用に向けた整備推進の要望を受けている。</p> <p>県知事の意見： ・地域住民の安全・安心の確保や沿線地域の振興のため、事業を継続する必要がある。 ・なお、都市内の交通緩和については、TDMの活用の可能性など、総合的な観点からも考えるべきである。</p>										
事業評価監視委員会の意見	<p>・審議の結果、再評価及び対応方針(原案)の「事業継続」は妥当である。</p>										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>・上新バイパスが順次延伸整備され、平成3年度までに全線24.6kmが暫定2車線供用し、平成21年度までに上越市今池から上越市下源入間延長8.1kmが4車線で供用。 ・平成11年度に上信越自動車道(中郷IC～上越JCT間)が開通。 ・バイパス周辺の商業施設立地等が進み、上新バイパスの交通量は増加傾向にあり、上信越自動車道の全</p>										

線供用後も交通混雑が生じている。

- ・また、平成17年に上越市、安塚町、浦川原村、大島村、牧村、柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、中郷村、板倉町、清里村、三和村、名立町が上越市として合併。新井市、妙高高原町、妙高村が妙高市として合併。

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業の進捗状況：事業進捗率60%、用地進捗率72%

残事業の内容：4車線化の工事（改良工、橋梁工、舗装工等）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

上越市岡原交差点～今池交差点間延長1.7kmについては、平成25年度の4車線供用を目指し工事を推進する。残る事業については、交通状況を勘案し、関係機関と調整を図りながら行う。

施設の構造や工法の変更等

施工にあたっては、新技術の活用や建設発生土の転用などにより、コスト縮減に努めていく。

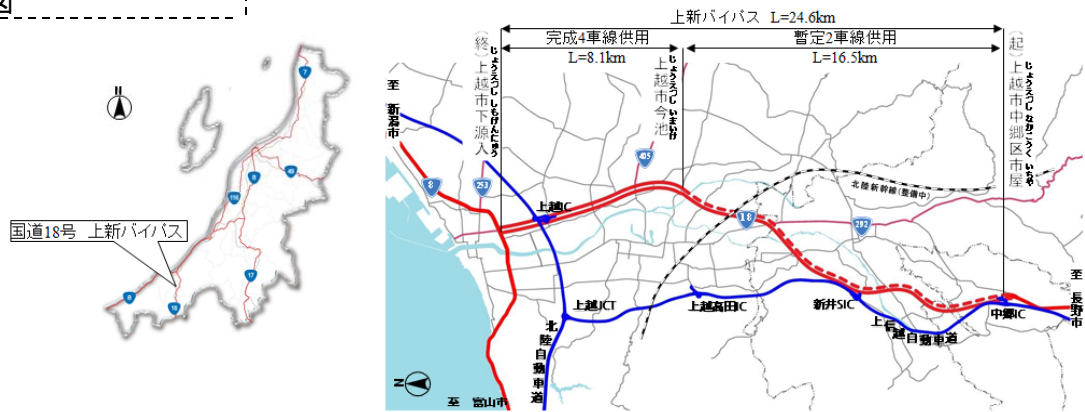
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。